



SS 科学基礎 (出張講義)

平成 25 年 5 月 17 日(金)に、1 年生 306 名が参加して、宇都宮大学教授小金澤正昭先生の出張講義が開催されました。演題は「奥日光におけるシカの増加と森林生態系への影響」です。毎年初回は小金澤先生の出張講義で、尾瀬、足尾、日光の自然と生態系のお話をしていただき、生徒の環境への意識を高め、日光戦場ヶ原自然探究活動や尾瀬ヶ原自然探究活動、足尾銅山緑化ボランティア活動などにつなげていきます。

講義では、小金澤先生の長年の研究結果や自身のフィールドワークを通して見てきたものを画像だけでなく、身振り手振りを交え分かりやすく説明して頂きました。普段の理科の授業ではなかなか扱わない内容だけに、生徒たちは皆、興味津津といった表情で講義に耳を傾け、先生の言葉をメモしていました。



足尾の山、奥日光から尾瀬にかけてシカの個体数が年々増加しています。その要因として、食物連鎖の頂点にいた捕食者であるオオカミの絶滅や狩猟者の減少、植林活動と暖冬による越冬地の拡大と冬場の食糧不足が改善されたことが挙げられます。この問題により、林業被害や植生景観の変化など森林生態系への影響は無視できない状況です。シカの個体数増加に対し、狩猟の促進、電気柵などの手段を講じ個体数の調整をするなどの具体的な対応策についても学びました。



講義後の質疑応答では、積極的に質問しようとする生徒の手が次々と上がりました。シカの生息密度を下げる手段の、オオカミをシカの生息域に放つという方法について、人間への影響は無いのか、シカ以外の動物への影響はどうか。また、植林後の苗木を食べられないようにするための最新の手段など多くの質問に対し、丁寧に回答して頂きました。中でも、オオカミが人を襲ったという事例は稀であるという話では、外国と日本でのオオカミに対する印象の違いという、異なる視点からの説明もあり、今後の海外研修へ向けて通ずる内容でもありました。

後日提出されたレポートには、ニュースや新聞で見聞きしていたことが実際は自分たちのすぐ身近にあり驚いた、人間が自然環境に手を加えた結果が現状であり、元に戻すことも守ることも人間の義務である、など各々思うところがあったようで、今後の SSH 関連行事へ向け良い第一歩となりました。

